



夢への飛躍

金沢桜丘高校いしかわニュースーパーハイスクールだより



令和5年度 第4号

編集：NSH推進課

発行責任者：梅本 浩照

人文科学コース 県外研修 (首都圏)

8月24日(木)～25日(金)の2日間、2年人文・自然科学コースの生徒が県外研修に参加しました。本研修は、日本を支える企業や施設・研究機関を訪問し、実践的な知識や技術に触れることで、21世紀の社会を支えるグローバル人材としての資質・能力の向上を図ることを目的としています。

1日目：

東京国立博物館



上野駅に着きました。まずはトーハクを目指します。ここは日本で最も長い歴史を持つ博物館で、12万件を超える、日本と東洋の美術と考古のさまざまな作品を保管しています。

生徒の感想

- ・教科書でしか見たことがなかったものを実際に目で見た時の感動はとて大きかった。「これは何に使うのだろう」と歴史の授業中に思っていたものも、その使い方について理解が深まり、使っている情景を思い浮かべることができました。
- ・日本のものを多く所有し展示する日本の博物館でありながら、どこか外国の雰囲気を感じられることに不思議を感じた。作品展示では日本人の変わらぬ感性と変化した感性の両方を感じられた。

班別活動



午後からは、課題研究のフィールドワークを行いました。観光地浅草の様子を観察したり、関東で一番長い商店街を見てまわったり、福祉施設を訪問したりと、複雑な交通網に翻弄されつつも、自分の足で都内を歩き回りました。

生徒の感想

- ・戸越銀座商店街に行った。1.3キロも商店が立ち並び、下町感あふれる光景にわくわくが止まらなかった。・・・商店街とその周辺の地域を、一丸となって守ろうとしているのがすごくかっこいいと思った。昔ながらの人情味を守りつつ、現代にも適応した商店街だと思った。
- ・浅草でのフィールドワークでは、全ての需要を把握した上で、それに応えようとする都市の姿を垣間見た。日本人・外国人問わず冷静に対応しスムーズに商売をする様子や手法が勉強になった。

午後16時に赤門集合。とにかく暑い都内でしたが、みな無事にたどり着きました。フィールドワークは実りの多いものだったでしょうか？手にはおみやげの紙袋が目立っていましたね。

東大赤門



2日目：

地獄の通勤ラッシュにもまれ、日本の中枢大手町に到着。高くそびえ立つ高層ビル群は壮観です。その中にあるビルの22階で、「DX 戦略体験プログラム」を受講し、「架空のコンビニの利益を伸ばす」を命題に、班で競い合いました。実際の仕事では、どのようなシステムを構築・導入すればよいのかを、お客様への丁寧なヒアリングをもとに、緻密な思考で決定していきますが、そのプロセスをゲームを通して体験しました。SE(システムエンジニア)の仕事内容を深く理解することができ、将来の学部選択・職業選択の視野が広がりました。

生徒の感想

- ・「ロジックツリー」という思考の方法を学んだ。これは「目標達成のための手段をさらに細かくしていく」というもので、自分にとって「今しなければならぬこと」がはっきりと分かるので、必要な考え方だった。また、「優先順位をつける力」もすぐに身につけなければならない力だと思った。
- ・社員がやりたいことがやれる会社であると共に、やりたいことがないと働いていけないという話をきいて、強い意志や志願をもっていかうと思った。

野村総合研究所



東京駅を經由し、班毎にJICA 地球広場へ向かいました。ランチで初めてエスニック料理(チキンアドボやピラウ)に挑戦した者も！プログラム前半では、青年海外協力隊としてエチオピアで活動をされた方のお話を聞きました。海外協力隊は専門分野を決めて活動するのですが、なんと専門分野＝職種は190以上もあるとのこと！将来みなさんも海外協力隊になっているかも。後半は、展示を見学しました。

JICA 地球広場



生徒の感想

- ・青年海外協力隊にはたくさんの職種があって、自分の得意なことや好きなことで人の役に立てて、外国の文化や言語を身近に感じながら生活できるということに興味があった。
- ・海外に行くと日本から見て常識外れなことが日常であったりすると知ったので、環境に合わせる力をつけておきたいと思った。また、常識外れなことでも先入観にとらわれて考えるのはやめようと思った。

・この研修を通して、私は将来海外に行って他国の文化に実際に触れてみたいと思いました。今まで自分が将来したいと思うことがはっきりとしていなかったけれど、初めてモヤモヤが解消されたように感じました。

・システムエンジニアや青年海外協力隊という、ふだん関わることのない仕事の内容も学ぶことができ、英語の重要性についても改めて知ることができた。

・東京での移動はかなり大変で、金沢とは比べものにならないくらい一つの駅が広く、路線もたくさんあって、迷わないかハラハラした。

・調べることの大切さが分かった。今回、自分たちだけで行動する機会がたくさんあった。不慣れな地下鉄での移動も全て自分で調べてすることができ、調べれば自分一人でもある程度なんでもできるという自信がついた。

・野村総合研究所では、海外で働いている人の割合は40パーセントということに驚いた。・・・英語力を鍛えることで、将来の選択肢は大きく広がります。私は将来の夢はまだ決まっていませんが、とりあえず今は机に向かい、どのような夢にでも手が届くように備えておきたいと思います。また、学業だけでなく、様々なことを学び吸収していきたいです。

・大学時代に何か一つの物事を熱心に研究した経験も採用条件の一つとなるときいて、高校・大学時代にしておくべきことの想像がしやすくなった。

・この2日間で様々な場所を訪問して、ただインターネットや本で調べるだけでは得られないような情報を、実際の体験を通して知ることができ、とても充足した時間を過ごすことができた。

・今回の旅行では、自分の小ささというか、今まで見てきた世界の小ささがわかったような気がする。それは単に建物の大きさというだけではなく、自分の見ていた範囲が小さかったということだ。

・自分で解決しようとする大切さがわかった。分からないことだらけの東京で、予定を変更したり道に迷ったりすることもあったけれど、班のメンバー全員で調べながら過ごした行きあたりばったりの時間はとても楽しかった。大切なのは、自分一人で解決することではなくて、まずは自分で解決しようと行動して、力不足だった時には人に頼って一緒に取り組むということなのだと感じた。